

# ホクギンレポート

## 新潟県の中心市街地の現状と課題 ～大型店、そして中心市街地のあり方は～

### 要 旨

1. モータリゼーションの進展などを背景に大型店の増加が著しく、近年では、郊外への開設が多くなっている。実際、買物に自家用車を利用する人は多く、大型店の利用頻度も週1回以上が7割を占めるなど、消費者の大型店志向が続いている。この間、増え続ける大型店の出店を規制するために、「大店法」や、「大店立地法」などから成るいわゆる「まちづくり三法」が施行されたものの、大型店の増加は続いている。
2. 一方で、中心市街地が空洞化している。背景には、大型店の拡大をはじめ、駐車場や商店街などの要因が言われている。「中心市街地活性化法」に基づいて全国の市町村では中心市街地活性化基本計画を作成したものの、思うような成果に結びついていない状況もみられる。県民へのアンケートでは、中心市街地の商店や駐車場に対する要望が多く見られている。本年「中心市街地活性化法」、「都市計画法」が改正され、「改正まちづくり三法」が成立した。
3. 新潟市、長岡市の中心市街地活性化への取り組みを紹介する。両市とも中心市街地の、歩行者通行量の減少、小売業の売上高減少等が見られ、空洞化している様子がうかがえる。このため、中心市街地活性化基本計画を作成し、取り組んできたほか、活性化プラン、整備計画等を立てて、中心市街地再生を図っている。
4. 中心市街地の活性化を図っていくには、商店や駐車場、公共交通機関の改善、さらに街なかでの公共施設の整備等が重要であり、それぞれの地域の特色を活かした取り組みが必要である。そして、人々が集まってくるような魅力ある中心市街地にすることが最も大切である。さらには、ハード面に加え、ソフト面を向上させ、訪れた人にまた来たいと思わせる街づくりができれば中心市街地の盛り上がりにつながっていくのではないかと。

### 構 成

- |   |  |
|---|--|
| <p>第1章 新潟県における大型店の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに</li> <li>・新潟県の小売業の現状</li> <li>・大型店の利用状況</li> <li>・大幅に増加する大型店</li> </ul>                                       | <p>第3章 県内の中心市街地活性化への取り組み状況<br/>～新潟市・長岡市の事例～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内での取り組み状況</li> <li>・新潟市の取り組み</li> <li>・長岡市の取り組み</li> </ul>                              |
| <p>第2章 中心市街地の現状と<br/>「まちづくり三法」の改正</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進む中心市街地の空洞化</li> <li>・中心市街地活性化法の成立</li> <li>・中心市街地に対する県民意識と商店街の意識</li> <li>・「改正まちづくり三法」の成立</li> </ul> | <p>第4章 中心市街地のさらなる活性化に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地は必要な街か</li> <li>・中心市街地のあり方は</li> <li>・魅力ある中心市街地は</li> <li>・今後における本県の中心市街地活性化</li> <li>・おわりに</li> </ul> |